

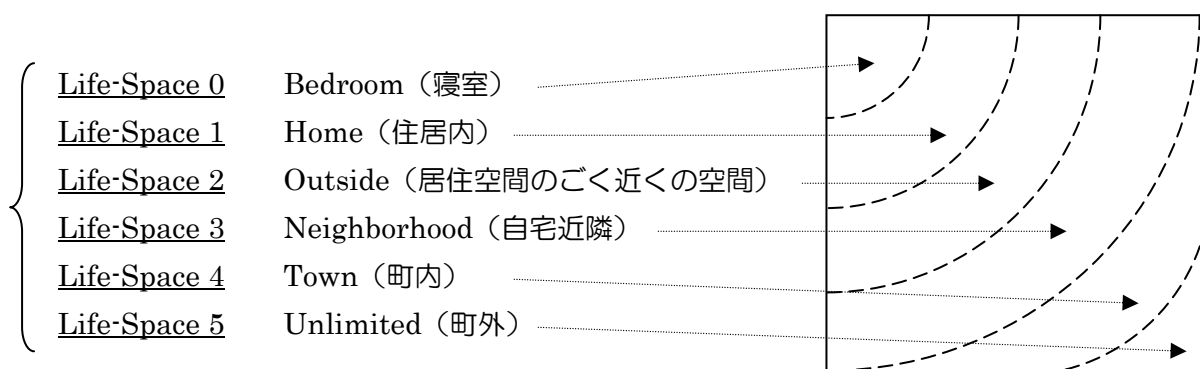
Life-Space Assessment の測定について

1、Life-Space Assessment の使用方法

Life-Space Assessment は個人の生活の空間的な広がりにおける移動を評価する指標です。その目的は、評価実施前の1か月間における個人の通常の移動パターンを調べることです。生活空間とは、ある期間において活動を実施するために日常的に外出した距離によって規定されます。そのため、個人が自分の住居から出かけた距離および頻度、そして自立の程度の調査が必要となります。

生活空間の各レベルは個人の寝室からの距離で示され、これら生活空間に関するレベルは以下の図で説明されます。

生活空間の定義は人々によって様々ではありますが、個人内では一致します。本指標開発者らの調査では、対象者の60%（都会と地方の双方）は自宅から800m以内を近隣としていて、さらに、92.5%は居住する町の外への外出は16km以上であるとしています。



2、Life-Space Assessment 実施における Q&A

Q.1 『補助具または特別な器具を使用』が、時々の場合には？

- A. 用心のために時々使用する場合でも、『補助具または特別な器具を使用』の「はい」に該当します。もし、事前に杖を使うことが示されていれば、面接者はレベル1の質問をする時に「あなたは〇〇へ行くために杖を用いましたか？」と質問します。もし対象者がいいえと言った場合、面接者は各レベルにおいて杖の使用に関する質問を行います。

なお、『補助具または特別な器具を使用』とは、個人があるレベルを達成するのに杖、歩行器、補装具を用いた場合を指します。

Q.2 能力的に『他者の助けが必要』レベルでも、普段ひとりで行っている場合には？

- A. 『他者の助けが必要』の「いいえ」に該当します。他者の助けとしては、対象者がいつも用心のために他者の助けを受ける場合となります。そのため、他者の助けが常時受けられることがなく、ひとりで行っている場合には、自立して達成できたものと推測できます。

Q.3 つたい歩きを行って移動している場合には？

- A. 『補助具または特別な器具を使用』の「はい」に該当します。バランスを保つために配置された家具や、立ち上がりのために用意された歩行器なども含まれます。

Q.4 もし、「レベル1」で補助具や介助を必要としている場合には？

- A. ある低い生活空間レベルを得るために器具を用いる場合、全ての下位の生活空間レベルの達成には器具が必要となり、同様に、ある低い生活空間レベルを達成するために他者の助けを必要とすれば、全ての高い生活空間の達成には他者の介助が必要と考えられます。例えば、朝ベッドから起きるために他者の助けを要するが、それから歩行器を用いて移動できる場合には、全てのレベルにおいて『他者の助けが必要』で「はい」を選択することになります。

Q.5 レベル3（自宅近隣）とレベル4（町内）の境界は？

- A. 自宅近隣と町内に関する距離について、参考となる境界は下記のとおりです。

}	・自宅近隣	： 約 800m 未満
	・町内	： 近隣外（住居から 800m 以上）から約 16km 以内
	・町外	： 住居から約 16km 以上

しかし、「自宅近隣」と「町内」の意味は、対象者が感じたままとします。対象者が回答に窮した場合のみ上記の目安を提示してください。

Q.6 各レベルの質問をすべて行う必要は？

- A. いずれのレベルの質問も省略せずに、各レベルの質問を全て行って下さい。例えば、近隣内のいかなる場所にも行かないと言っても、1週間に何度か町へ行くと報告する対象者もいます。

Q.7 自動車で誰かに送ってもらう場合には？

- A. 『他者の助けが必要』の「はい」に該当します。他者とは、介助を受ける者がある場所まで自動車を送る者、バスに乗るための介助をする者、付き添いをする者といった人々を含みます。

Q.8 自動車を自分で運転する場合には？

- A. 『補助具または特別な器具を使用』『他者の助けが必要』の両項目で「いいえ」に該当します。また、息子がいるときには車で送ってもらうが、他の時には自分で運転する場合でも同様です。しかし、自分で運転している場合でも、いつも息子が車に同伴していた場合は、『他者の助けが必要』の「はい」に該当します。

Q.9 公共交通機関の利用で外出が自立している場合には？

- A. 公共交通機関の利用において、補助具や他者の助けも必要なく自立していれば、『補助具または特別な器具を使用』『他者の助けが必要』の両項目で「いいえ」に該当します。

Q.10 将来的に能力の改善が予想される場合には？

- A. 質問はちょうど過去1か月以内の活動となりますので、以前どうであったか、近い将来にどうなると予想することとは関係なく回答してください。時々、対象者は（手術や疾病からの回復のために）一時的に制限されたりする場合、「通常の」または「標準的な」活動についての情報を提供したがる場合がありますので注意が必要です。